

第4回腎不全外科研究会は 1995 年 6 月 16 日・17 日に札幌において、大平整爾会長(岩見沢市立病院院長)の下で開催された。

6 月 16 日夕方から京王プラザホテル札幌で開催された Joint Evening Conference は 3 つのテーマについて内科的・外科的側面から討論が持たれた。①ブラッドアクセスと心機能では過血流シャントの問題提起がなされ、心不全発症時の血流減少術や血流モニタリング法が解説されている。超音波ドプラ法(現在のパルスドプラ法)は簡便だが 30%前後の誤差を伴うことがすでに指摘されていた。②消化管手術では手術成績の統計が提示され、早期癌の成績は健常人に匹敵するが進行癌で顕著に悪化することが指摘され、術前評価・術中術後管理・術後栄養管理や ESA による貧血管理について詳説されている。③続発性上皮小体機能亢進症では、ビタミンD経口パルス療法、経皮的エタノール注入法(PEIT)、副甲状腺摘出術(PTx)の適応選択・実施法の解説と、新薬である 22-oxacalcitol への期待が示されていた。

6 月 17 日は北大学術交流会館において開催され、総説として透析患者の各種病態・治療が紹介された。虚血性大腸炎(現在の非閉塞性腸管虚血にあたると思われる)の統計報告は、病態や発症機序・予後等につき実症例をもとに深く考察が行われた。また透析患者の手術で問題となる易出血性や周術期血液浄化法の特長と注意点について指摘があり、多発性嚢胞腎に続発する出血・腫瘍の診断・治療法、脳血管障害と手術治療の実際、PEIT の適応と効果に関する実臨床、消化管カルチノイド症例が報告された。

さらに臨床経験 16 演題、症例報告 8 演題、看護 2 演題が収録されている。